

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170800177		
法人名	有限会社 なのいろファミリー		
事業所名	グループホーム 虹の里 伊自良		
所在地	岐阜県山県市松尾344-5		
自己評価作成日	平成24年7月12日	評価結果市町村受理日	平成24年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2170800177-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師1名、准看護師3名を配置し、医療機関とも連携しながら常にご利用者の健康状態に留意しつつ、快適な日常生活に向け医療、介護の両面から支援しています。30代から70代までと幅の広い職員を疑似家族のように配置し、ご利用者が安心感を得られるように配慮しています。昔懐かしい雰囲気のある場所で、ご利用者とご家族の橋渡しをしながら癒しのケアを目指します。ご近所の方に自家菜園の畑仕事を手伝ってもらいながら会話したり、皆仲好く散歩したりと、そんなのんびりした暖かなホームです。また、自家菜園で栽培した野菜やご近所から頂いた野菜等を食卓に並べ、四季の変化を味わうことができますようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設10年目を迎えている。当初は自立度の高かった人も、確実に重度化が進み、現在、半数以上の人が寝たきりとなっている。看護師4名を擁し、協力医と連携を密に、最期までその人らしく、穏かに暮らせるように、職員一丸となって取り組んでいる。職員の年齢層も幅広く、定着率もよい。利用者との馴染みの関係を密に、限りある時間を日々穏かに過ごせるように、笑顔を決やらず、優しく寄り添うケアを実践している。そして、家族の「ホームで穏かに最期を」との願いを、あたたかい心で支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご本人、ご家族のニーズを第一とし、個性を尊重した自立支援」を理念とし、2～3カ月に一回のミーティングにて、この理念に基づいた介護が提供できるよう職員全員で確認している。	理念は、本人・家族の生活の質の向上と、個性のある自立支援を掲げている。ミーティングで、理念の意義を全職員で確認し、共有している。地域の中でその人らしく最期まで安心して暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	演芸会やイベントに多数の地域の方々やご家族が参加されている。日常の散歩時などに会話したりして、お祭りや絵手紙展にお誘い頂く関係を築いている。子供会との交流に向けて役員の方と協議したが、感染症等の観点から時期を見て交流会を行うこととした。	自治会の賛助会員として、地域行事に参加したり、ホームイベントに招いて交流している。演芸ボランティアや中・高生が福祉体験実習に訪れている。近隣の人々とは、何でも協力し合える関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回開催される地域ケア研究会に職員が参加し、グループワーク等を通してホームでの経験等の話をできる機会を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回近況や防災設備の整備状況、防災訓練状況等の報告を行い、利用状況や活動内容について意見をいただいている。改善点については、できる限り早く対応するように努力している。また、指摘のあった外回りの環境整備についても、ご近所方のご助力を得て実施することができた。	会議は、2～3ヶ月ごとに開催し、行政、地域役職者、住民代表が参加している。運営報告に対して、意見を交換し、地域防災訓練、暑さ対策、空き室の課題等を話し合い、事業運営に活かしている。会議への家族の参加が少ないことが課題となっている。	家族が会議に参加しやすいように、代表者に限定せず、日程調整も含めた環境づくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの緊急対応や困難事例の要請については、何度も話し合いを重ね、協力体制を整えた上で、受け入れるようにしている。当ホームでの困難事例や防災設備等の整備等について相談することもある。	運営推進会議に出席した担当者へ、運営の実情を伝えている。ケアマネジャー会議には必ず出席し、情報を交換している。市の介護相談員も、毎月訪れている。困難事例や設備改善など随時相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修を受けた職員が、ミーティング時に内容を伝達し全員が理解できるようにしている。しかし、身体保護を優先せざるを得ない場合には、ご家族の同意を得た上で、慎重に対応している。現在は玄関の施錠を行っていない。	身体拘束ゼロを目指し取り組んでいる。やむを得ず、身体保護の必要な重度者がいるため、家族と十分話し合い、安全に配慮した対応策をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束、虐待に関する研修を職員が受け、全員に伝達している。特に、言葉による虐待については、無意識に行われている可能性もあり、慎重を要する旨、何度も話し合っている。特に、言葉使いや声の大きさにも注意するように話し合っている。		

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理等の相談を受けた場合は、成年後見制度の紹介、社会福祉協議会等への橋渡し等を行っているが、手続きが煩雑で制度として使いづらいとの反応がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改定に伴う加算等については、文書または口頭で、家族に十分説明し、理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での連絡等、機会があれば、ご利用者の報告を行い、要望等を聞くようにしている。面会の少ないご家族には、運営やご利用者の状況をより一層詳細に伝える事の必要性を感じている。	家族の訪問時や電話で、意見・要望を聞いている。水分補給、食事介助の手伝い、タバコの制限等の意見・要望があり、速やかに対応している。さらに、利用者の生活ぶりを伝える便りの充実も目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に限らず、個別の意見にも耳を傾け、提案を尊重し、できる限り形にして、意欲が持てるようにしている。時には、職員にすべてを任せるようにしている。	管理者は、日頃より、職員から意見を聞いている。重度者への食事介助の工夫、感染予防、暑さ対策や休憩の取り方等、話し合っている。意見・提案は、できるものから改善し、働く意欲が持てるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自主性を重んじつつ、職員各人の状況を把握しながら、待遇改善に努めている。また、ミーティングを通じて運営に関する意見聴取したり、管理者側が研修に参加して改善策を模索している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質向上や当ホーム独自のケアにつながるアイデアや提案については、研修への参加や研究を積極的に勧めている。また、介護福祉士を目指す職員には、資格が取得できるよう支援しており、昨年度も1名の合格実績を得た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山県市の介護事業者連絡協議会、ケアマネ部会、GH連絡会、岐阜県GH協議会等に参加し、積極的に意見交換している。また、医療依存度の高いご利用者の受け入れに際しては、病院や他の介護施設と交流し、情報収集に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事情が許せば入所前にご自宅や病院、施設等に伺い、安心につながるよう面談を行っている。入所後も、ご本人とできるだけ会話をもち傾聴することにより、ニーズを拾い上げるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能であれば、ご自宅や職場等に伺って、ご家族の状況(家族関係や仕事、ご家族の身体状況等)を傾聴し、できる範囲でニーズに応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場合によっては、入所前に連携医療機関への受診を勧め、医師の判断を仰ぎつつ、慎重にご本人の状況の把握に努め、紹介者(ケアマネ等)やご家族との連絡を密にして、対応を協議している。また、他のサービスが適切と判断される場合には、地域包括支援センター等の協力を仰ぐようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームは、要介護度の軽重が両極端なため、個別ケアを中心としている。自立度に応じた活動やケアを通じて職員との信頼関係を築いている。また、介護度に拘わらず、できるだけ多くの言葉掛けを行い、ともに過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時には、ご本人、ご家族ともに混乱してことも多く、家族関係に亀裂が生じている場合もあるが、時間の経過とともに関係修復できることも多い。入所後の様子を伝え、まずご家族と職員間の信頼関係を構築すべく傾聴の姿勢を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームを、ご家族とご利用者とのパイプ役と位置付け、ご家族や友人、近所付き合いから孤立することのないよう支援している。行きつけのお店や喫茶店への外出など、社会とのつながりを継続できるようにしているが、重度化に伴い機会が減ってきている。	知人・親戚、子どもや孫もよく訪れている。ホーム近隣の人、訪問理容師も馴染みの関係である。馴染みの店での買い物、喫茶店、かかりつけ医院へ職員と一緒に出かけている。子供用のスリッパを用意し、再訪につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活を通じて、利用者同士の関係を把握し、相性のよい利用者同士を隣の席にして会話を楽しめるように配慮したり、孤立しないように声かけしたり、トラブル回避のため距離を置くようにしたりして、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動の際、申し送り、介護情報提供書の作成を行い、ご本人の新たな環境への順応を支援している。移動後、ご本人が帰りたいとの思いをご家族に打ち明けられ、ご家族が悩まれることもあり、フォローを継続する場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族より思いや意向を聞き、ミーティング等で協議して、できる限り対応している。例えば、喫茶店に行きたい、たばこを吸いたい、買い物等の要望についても対応している。また、家族に連絡して欲しいなどの要望には速やかに対応している。	日々の暮らしの中で、本人から話を聴き、思いを把握している。好きか嫌いかの意思表示で意向を把握したり、動作や行動から思いを推測し、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介者(主にケアマネ)やご家族からの情報や、入所時や入所後の会話の中から、利用者各人の歴史等の背景の把握に努め、フェイスシートの充実等を通じて、サービスに活かし、これまでできていたことを永く続けられるように工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できていること、最近できなくなったことなど、申し送りノート、個人記録、ミーティングを活用して情報を共有し、職員全員が利用者各人の状況を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安定時には半年に1回、状態変化時にはその都度、ケアプランの見直しを行い、ご本人やご家族の意向やそれぞれの意見、またミーティングで取り上げた内容を、ケアプランに反映させるように工夫している。	利用者個々の状態を全職員で把握検討し、介護計画を作成している。その際、本人・家族の意向を必ず確認している。心身の状態やケアの実施状況を、モニタリングし、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	漫然とした記録になりやすいのでご本人の言葉をそのまま残すよう話し合いながら、職員全員が利用者各人の状況を把握できるようにするとともに、ケアプランの作成に活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が徐々に悪化しているような場合に、今のうちに自宅に外出させたいなど、状況の変化や、ご家族の要望に、柔軟に対応できるように検討している。		

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りなど地域の行事に参加するなどして、地域の人や場の力の働きかけを借り、安全で刺激のある生活が行うことができるよう支援している。また、地域の美容師さんの訪問してもらうなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、細心の注意を払っている。ホームの連携医が認知症サポート医であり、協力体制が整っている。できるだけ入院しなくてもよいように、往診での点滴等の配慮をいただいている。	契約時に本人・家族の希望を聞き、要望があれば、かかりつけ医を協力医に変えている。隔週の往診と必要時にも随時往診を受けている。職員の看護師と協力医が緊密に連携し、適切な医療を支援している。専門科医への受診は看護師が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名及び非常勤の准看護師3名を配置し、一部介護にたずさわりながら、日々異常の早期発見や必要なケアの提供に努めている。介護職がすぐに看護師や連携医療機関の看護師に相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に際して、必要に応じて主治医、担当看護師、ケースワーカー等病院関係者、担当ケアマネジャーと協議し、送り、情報共有を行っている。また、ご家族と定期的に情報交換を行い、ご利用者の状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時におおよその方針を説明し了解を得、段階ごとに主治医、ご家族と相談しつつ、職員間でのミーティングを行いながら慎重に進めている。看取りのご希望が多い半面、状況によっては、ご家族が入院を希望されることもあり、その都度相談しながら対応している。	重度化・終末期の指針があり、契約時に本人・家族に説明している。段階ごとに、家族や医師など関係者で話し合っている。家族とは、覚え書を交わし、終末期の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時訓練や勉強会を行っているが、さらに対応力を高めていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に、地域自治会代表や近隣住民代表に参加してもらい、夜間も含めた防災訓練等を通じて、災害時の協力体制について協議を行っている。また、災害に備えて、一定の食料、オムツ等を備蓄している。地域の防災訓練に職員を派遣し、地域との連携強化につとめている。	年に2回の避難誘導訓練には、地域の人に参加することもあり、地域の諸団体への通報訓練も行っている。備蓄品、ヘルメットも整えている。職員が地域の総合防災訓練にも参加し、近隣の人からも何時でも協力が得られる関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時の声の大きさや声かけの仕方に関しては、ミーティングの際に注意喚起を継続し、改善されてきているが、一方で馴れ合いに陥ることのないように注意喚起を継続している。	誇りを損ねないように、排泄時の声のかけ方に配慮するように徹底している。一人ひとりの権利や人権を、対人援助の基本とするための理解と、身に付けるための努力を継続している。	さらに、接遇マニュアルを整備し、学習の機会を増やし、実践を振り返りながら、人権意識のさらなる向上に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物等、何種類かの中から好きな物を選ぶようにしたり、合唱の選曲、レクリエーションの内容等、日常の場面で自己決定出来るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室の掃除機かけや、廊下のモップかけ、食器の後片付け等その人らしい日常のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容師を専属に依頼し、本人の好みに応じた対応を行っている。時には、マニキュアを楽しんだりもしている。服やウィッグなど、ご本人が大事している物は、職員も丁寧に扱うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じた食事に向かう楽しみの支援を行っているが、食事介助を要するご利用者が増えたため、職員と一緒に食事をとることは困難になっている。又、当ホーム農園で野菜の収穫を行い、また近隣より頂いた新鮮な野菜を調理し、食卓に並べ皆で味わう。	自家菜園で、利用者と一緒に収穫した野菜を調理している。寝たきりの5名は、居室で食事介助をしている。自立の人は、下処理、片付け、食器洗いを手伝っている。職員は、居室で重度者介助に集中するので、食事を楽しむ時間に余裕がもてない。	職員は食事介助に手をとられ、食堂では自立の人だけで食べている現状の中、居食分離の可能性を引き出したリ、食事介助の職員対応の工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や、水分摂取量、体重の推移等を記録に残し把握している。また、可能な限り経口摂取できるように、きざみ、ペースト等の食事を提供し、時間をかけて介助している。また、野菜の種類を多くして、彩りに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各人の能力に応じて、毎食後口腔ケア、義歯洗浄等行っている。		

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り布パンツの使用してもらっているが、紙パンツや紙おむつをしている方にも、できる限りトイレで排泄できるように声かけし、歩行訓練を兼ねトイレ誘導を行っている。	排泄リズムを把握し、対応をこまめに行っている。適宜、声をかけ、さり気なくトイレに誘導している。できるだけ布パンツに切り替え、紙おむつの使用量を減らし、経済負担の軽減にもなっている。歩行の訓練で、排泄機能を改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動等を行っているが、重度の方、薬の副作用や消化器疾患で便秘の方は下剤や浣腸に頼らざるを得ないこともある。テーブルにポット置き、好きな時間にお茶を飲むことができるようにしつつ、多めの水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には決まった日時となっているが、本人の希望があれば、この限りではない。毎日入浴を希望されるご利用者には、毎日声かけをしている。寝たきりの方にも、リクライニングシャワーキャリー等で入浴を楽しんで頂くよう準備中である。	一日おきに入浴できるが、毎日でも可能である。個々のペースに合わせ、ゆったり時間をかけて入浴している。寝たきりの人は清拭で対応しているが、「リクライニングシャワーキャリー」の導入が間近である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休みたいなどの要望には、随時対応している。快適な空調とし、夜間でも自由に水分摂取ができるようにするなど配慮している。夜間はスタッフが空調に気を配り、タイマー等で調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には看護師が管理しており、症状の変化、副作用の出現については主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、体操、自家菜園の野菜の収穫、ぬりえ、折り紙、カルタ、回想法、散歩、誕生会など実施している。その他にも、節分、梅祭り、梅ちぎり、花火見物、紅葉狩りなど四季折々の行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自立度に応じて、散歩、日光浴、買物、ドライブ、喫茶店など、出来る限りの外出支援をしてきたが、重度化に伴い困難になってきている。寝たきりの方は、リクライニング車いすで日光浴を楽しんでいただくようにしている。	自立度に応じ、自由な散歩を支援している。重度の方は、リクライニング車いすで、外気浴や夕涼みを庭先で行っている。年間行事として、イチゴ狩り、花見、梅の収穫等へ、職員と出かけるようにしている。	

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意の上で、ホーム側で管理しているおこづかいの他に、各人の希望に合わせ個人管理のお金を持っている。外出時の買物等で本人で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立度の高い方の中には、携帯電話を持ち込んで自由にかけられる方もいる。また、家族に連絡したいとの希望には、その都度対応している。親戚や友人等外部から電話があった場合、取次を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節電対策を兼ね、職員の提案、作成によるグリーンカーテンに挑戦している。また、ホールに花や植物を置いたり、二酸化塩素剤を噴霧するなどして清潔と消臭に配慮し、心安らぐ工夫をしている。	共用の場には、季節の花や観葉植物が要所に置いてある。貼り絵や塗り絵、壁飾りなど、生活感がある。皆が大好きな人気歌手のポスターも掲示してある。地元特産の柿畑が窓越しに広がり、心安らぐ空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室とホールを自由に行き来できるようにしている。また、外のベンチで気の合うご利用者同士がゆったり過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、使い慣れた物やなじみの物、ご家族の写真、ご家族の描いた絵等を居室に置いて頂けるよう、ご家族に協力を求めている。	居室には、馴染みの小物類、家族の写真、時計、テレビなどを配置している。誕生祝いに孫が作った色紙もある。窓越しに外の景観が眺められるようにベッドの位置を決めている。部屋づくりは、家族も一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレの位置が分かるように張り紙をして工夫している。洗濯も、職員の見守りの下、時には声かけしながら、自力でできるように支援している。ソファの上立ち上がるなどの行為があるため、位置を変えるなどして安全確保に努めている。		